

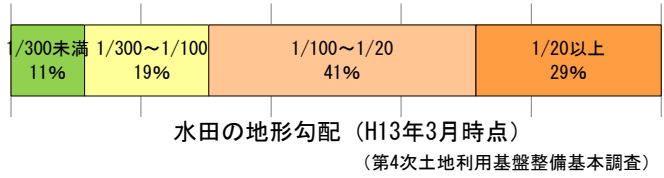
(2) 農業農村を支える担い手対策

市町、JA、農地中間管理機構等と連携し、地域の実情や地形条件、産地の振興方針等を踏まえながら、意欲ある担い手の規模拡大や所得向上につながる生産基盤の整備を推進します。

水田における基盤整備

■ 地形条件

水田の29%（全国14%）が1/20以上の急傾斜地にあります。



■ 整備状況

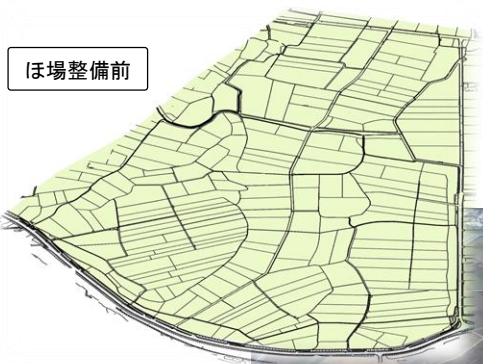
中山間地域を中心に小規模で分散した水田が多く、10a区画以上に整備された水田の割合は61%に達していますが、30a区画以上に整備された水田の割合は29%（全国68%）にとどまっています。

項目	愛媛県	全国
区画整備済 10a区画以上	60.6%	-
30a区画以上	29.3%	67.5%
50a区画以上	2.9%	11.6%

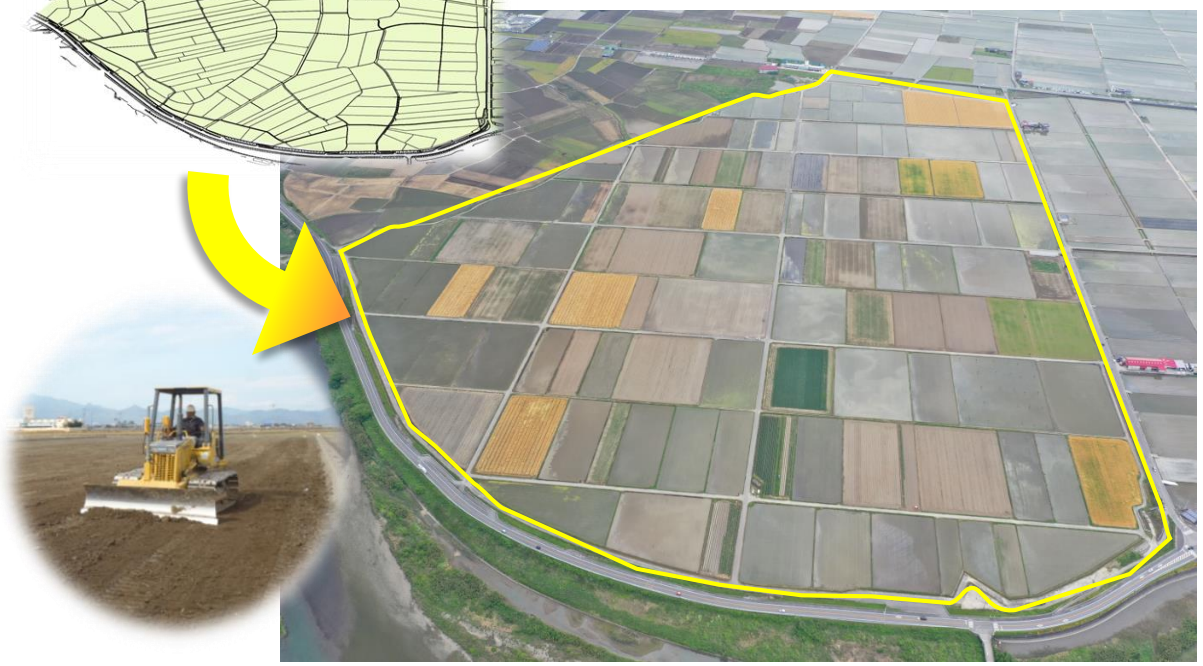
田の整備率（10a区画以上：R5年3月時点、その他：R3年3月時点）
（農業基盤情報基礎調査、農地整備課調べ）

■ 推進方針

担い手への農地の集積・集約化、営農の省力化・生産コストの削減、高収益作物への転換等を促進するため、**ほ場整備**や**暗渠排水等の整備**による**大区画化**や**汎用化**を推進しています。



ほ場整備
不整形な農地の区画を整形し、用水路、排水路、農道、暗渠排水などの整備を行い、生産性の高い農地をつくります。



ほ場整備された水田（西条市：大兵衛南地区、蔵井地区）

■ 事例紹介

大兵衛南(たへえみなみ)地区(西条市) 農業競争力強化農地整備事業(H23~R2)

大区画化

区画整理を行い、農道に接した大区画な農地にします

狭く不整形な水田
農道や排水路も整備されていない

大型機械での営農が可能となり、
担い手の規模拡大が可能に！



汎用化

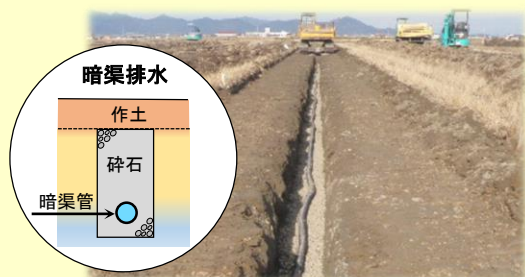
排水路整備や暗渠排水・客土を行い、水はけの良い水田にします

水はけが悪く
米以外の作物が栽培できない

湿潤状態が改善し、
野菜等の高収益作物の栽培が可能に！



道路に埋設した排水管で降雨を排水



暗渠管を水田に埋設し地下水等を排除

用水のパイプライン化

用水路をパイプライン化し水管理を楽にします



樹園地における基盤整備

■ 地形条件

樹園地の多くは、傾斜地にあり、44%（全国16%）が15°以上の急傾斜地にあります。



樹園地の地形勾配（H13年3月時点）

（第4次土地利用基盤整備基本調査）

■ 整備状況

本県の樹園地は、かんがい施設や農道の整備は進んでいますが、その多くが地形条件の悪い傾斜地にあることや、果樹は、新たに苗木を植栽し収穫できるまで年数を要することなどから、園地自体の整備（区画整備）が進んでいません。

項目	愛媛県	全国
区画整備済	5.3%	64.9%
かんがい排水施設整備済	53.4%	25.1%
農道整備済 （幅員3m以上）	74.0%	78.9%

注）樹園地のほか、普通畑、牧草地を含む

畑の整備率（R3年3月時点）

（農業基盤情報基礎調査）



スプリンクラー自動化施設の整備（八幡浜市）



農道の整備（八幡浜市）

■ 推進方針

柑橘を主体とする樹園地については、更なる労働生産性の向上、高収益品目の生産拡大、高収量・高品質化等を促進するため、**園地の再編整備による緩傾斜化、農道・園内道やかん水施設の整備、既存かんがい施設の高度利用**などにより、**災害に強く生産性の高い基盤づくり**を推進しています。

このほか、生産性が高い優良園地を効果的に確保するため、排水対策等の実施による**水田の樹園地転換を促進**します。



園地の再編整備（宇和島市）



水田の樹園地転換（今治市）

園地の再編整備

生産性が高く災害に強い園地に再編します

- 優良品種への改植等にあわせて、耕作放棄を含む生産効率の悪い園地を、
 ○高品質果実の生産や多様な経営に対応した**低コストで効率性の高い園地に整備**
 ○緩傾斜化や排水対策の実施により、**防災機能を強化**します。

【基盤整備】

- 園地の緩傾斜化・平坦化
- 農道、排水路の整x備
- かんがい施設の整備
- 作業道の整備 など

【営農対策】

- 優良品種・新品種の導入
- 新技術の導入（マルドリ栽培等）
- ハウス等施設整備
- 周年供給体制の強化 など

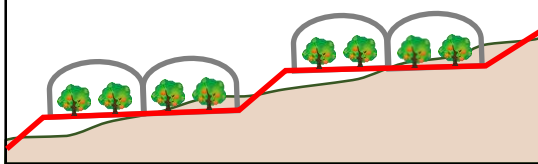
【担い手対策】

- 担い手への農地集積
- 新規就農者の確保・育成
- 外部労働力確保 など

※ **事業啓発時点から、関係機関・団体が連携**

例1 園地の平坦化+農道

優良中晩柑類のハウス栽培が可能に！
 （ハウス栽培により正品率が向上）



例2 園地の緩傾斜化+農道

担い手の規模拡大と
 高品質果実の安定生産が可能に！

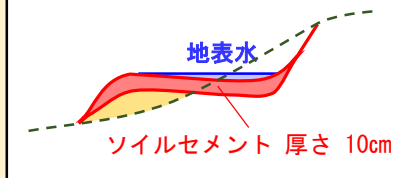


小規模な園地整備

安価で即効性の高い手法で既存園地の防災力を強化します

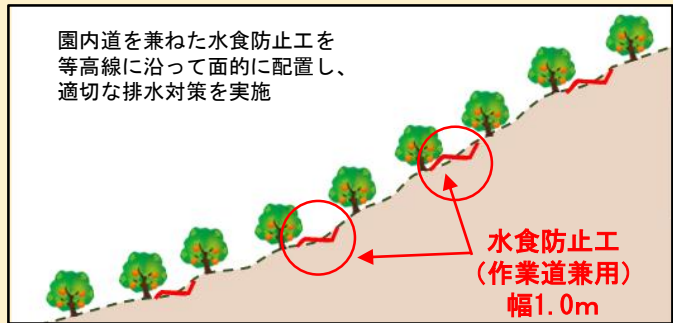
再編整備の実施が困難な既存園地に対し、
 ○安価で早期に完成し、営農への影響が少ない手法で既存園地の防災力を強化します。

水食防止工（作業道兼用）



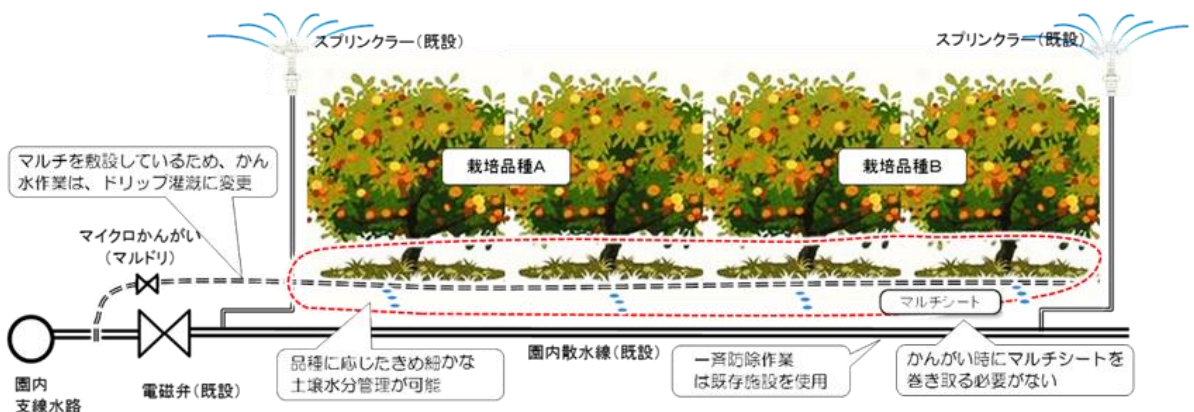
「セメント」と「土」を攪拌混合して
 ソイルセメントを製造⇒水食防止工

園内道を兼ねた水食防止工を
 等高線に沿って面的に配置し、
 適切な排水対策を実施



水利施設の高度利用

多様な水利用に対応した自由度の高い施設に改良します



■ 事例紹介(再編整備)

下難波(しもなんば)地区(松山市) 農地中間管理機構関連農地整備事業(H30~)

整備前

- ◆複雑な地形の傾斜地で農道も狭い
- ◆主にいよかんを栽培
- ◆農業者の高齢化
- 収穫等の農作業が重労働
- 摘果や収穫等の作業が特定の時期に集中
- 放任園が増加



関係機関・団体の連携による支援

担い手の円滑な営農開始に向けて、県・市・JAで組織する「中予地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム」が、植栽計画（土づくり、苗木の注文・定植）や施設計画（ハウス等の設置）なども含めてきめ細かく支援しています。

- 基盤整備7.0ha
- 農地集積

- 優良品種導入
- 施設整備等



整備後

- ◆農道が完備された平坦な園地
- ◆紅まどんな、せとか等を植栽
- ◆すべての園地を担い手に集積
- ハウス栽培をはじめとする多様な営農に対応
- 収益性は実施前の約5倍に増加する見込み
- 担い手10人（個人8、法人1、JA）で営農

産地を代表する「紅まどんな」等優良中晩柑の生産拠点

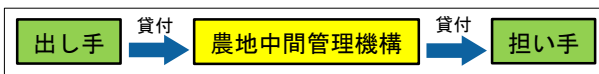
完成イメージ



紅まどんなのハウス栽培

ポイント

- ・ 園地の基盤整備は、**農家負担の無い農地中間管理機構関連農地整備事業**を活用
- ・ 担い手への農地集積は、**農地中間管理機構**を活用



- ・ JAが参入した農地は、新規就農者の育成（研修等）にも活用し、将来的に**新規担い手に継承**

■ 事例紹介(小規模な園地整備)

興居島(ごごしま)地区(松山市)

整備内容

排水機能を有する園内作業道(水食防止工)の整備 A=0.3ha



■ 事例紹介(水利施設の高度利用)

真穴(まあな)地区(八幡浜市)

農地耕作条件改善事業(H30~)

整備内容

老朽化したスプリンクラーの更新 A=159.5ha
きめ細かな水管理のためのマルチドリップかんがい施設の整備 A=36.8ha

これまでのスプリンクラーによる
一斉かん水・防除



スプリンクラー制御盤

マルチドリップかんがいによる
水分コントロール



ドリップかんがいユニット

生産力強化・
収入アップ

高品質化

多収穫化

省力化